

第3回メディカルセミナー開催レポート

7月21日(土)に第3回メディカルセミナーを開催しました。神経内科の内山智之部長(国際医療福祉大学 医学部教授)が講師を務め、「知っておきたい神経内科(脳神経内科)の病気—どんなときにかかるの?—」について講演し、連日の猛暑にもかかわらず228名の方にご参加いただきました。



内山 智之 神経内科部長

最初に、「脳や脊髄、末梢神経、筋肉とは?」についてお話ししました。神経細胞とはどのようなものか、加齢によってどういった変化があるのかといった説明に続いて、脳の各部署の役割や神経伝達物質と内分泌系の「ホルモン」の働き、それらと免疫系についての関係、脊髄と感覚器や運動器とのつながり、中枢神経や末梢神経、自律神経などについても触れました。

神経や脳のことを理解するために大切なことですがやや難しかったですね。しかし、まとめポイントや病気についての「チップス」(コツ)などがあり、理解しやすいように工夫されていました。さらに、以前住んでいた栃木県や留学先のロンドンの写真とユーモアあふれるエピソードが所々にはさみこんであり、会場からは笑い声も起こっていました。

神経内科についての説明もありました。「神経や筋肉の病気を見る内科」ということです。「高次機能の障害、意識本能、感情・情動などの障害」、「運動機能の障害」、「感覚機能の障害」、「自律神経の障害」など範囲が大きいので、他科と連携しながら診療しています。

代表的な症状と疾患としては、失神、てんかん、突発性睡眠、認知症、麻痺、パーキンソンニズム、運動失調、しびれ等々です。ただ、麻痺などの背後には脳卒中なども隠れています。

内山医師の専門分野は自律神経の障害です。中でも、頻尿、尿失禁、尿の出にくさなどの「下部尿路症状(下部尿路機能障害)」分野です。こうした症状にも、泌尿器疾患、女性では婦人科疾患、神経疾患などが背後に隠れている可能性があります。

神経系、筋肉系の障害による症状が疑われるときには、神経内科を受診してみてください。

講演後の「リハビリテーション体操」では、喜古梨沙言語聴覚士が転倒予防のための説明と、認知症予防のための頭と体の体操「脳と体を動かそう」をご紹介しました。2つのことを同時に行う「二重課題」で行った、自分の右手と左手によるじゃんけん勝負は難しく、会場が大きくわいていました。



認知症予防のための「脳と体を動かそう」
を行う喜古 梨沙 言語聴覚士

○次回は、**9月15日(土)10:30~11:30に当院2階で**

第58回けんこう教室「意外に多い!? 甲状腺の病気」

講師:吉田 知彦 糖尿病・代謝・内分泌内科副部長、国際医療福祉大学 医学部准教授
を予定しています。